

釜石湾の湾口防波堤と海洋環境 — 津波前後の比較 —

道田豊 (東京大学大気海洋研究所)

田中潔 (東京大学大気海洋研究所)

加賀新之助 (岩手県水産技術研究センター)

小家琢摩 (東京大学大気海洋研究所)

大槌湾や釜石湾などの三陸のリアス式湾では、穏やかな海況が維持されるとともに、栄養豊かな河川水も供給されることで、沿岸漁業にとっても適した環境が作られている。ただし、栄養も豊かになりすぎると海洋汚染に繋がることから、湾内と湾外の間での適度な海水交換も、良好な海洋環境の維持には欠かせない。

釜石湾の湾口には平成 20 年に世界最大水深 (63m) の防波堤が築かれていたが、震災により壊滅的に破壊され、開口部付近では震災によって水深が 15 m も深くなった。そのため、現在は以前よりも湾内と湾外の海水交換が非常に活発になっている。また、大槌湾では、蓬莱島にかかる突堤が破壊されたり、根浜海岸が消失したりして、湾内の流況が大きく変化している。

現在その実態解明を進めている最中であるが、特に今後は現場観測に加えて数値シミュレーションも組み合わせることで、一層の研究進展を図ることを計画している。